平成 26 年 8 月の解説（府県天気予報）

【8 月の天候状況】

上旬は、旬の初めは、台風第 12 号の影響で、沖縄・奄美から西日本で暴風雨となり、四国地方を中心に大雨となりました。また、4 日から 5 日にかけては、前線を伴った低気圧の影響により北海道で大雨となりました。その後も前線が西日本日本海側から北日本にかけて停滞し、さらに、10 日は台風第 11 号が西日本に上陸しました。このため、全国各地で大雨となり、沖縄・奄美から西日本では暴風雨を伴い、栃木県などでは竜巻が発生しました。これらの影響で、西日本の降水量は、8 月上旬としては統計開始の 1961 年以降で最も多くなり、西日本日本海側で平年比 406%、西日本太平洋側で平年比 692%となりました。また、西日本太平洋側の日照時間は、8 月上旬としては統計開始の 1961 年以降で最も少なくなり、平年比 27%となりました。

中旬は、太平洋高気圧の日本付近への張り出しが弱く、湿った気流の影響を受けやすく、全国的に曇りや雨の日が多くなりました。11 日は、台風第 11 号から変わった低気圧が北海道の西海上を北上したため、北日本を中心に大雨となりました。その後、本州付近に停滞した前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で、16 日から 17 日にかけて、近畿地方、北陸地方、東海地方を中心に雷を伴った大雨となり、土砂災害や浸水害などが発生しました。さらに 19 日夜から 20 日明け方にかけては、広島県広島市で集中豪雨となり、大規模な土砂災害が発生しました。

下旬は、太平洋高気圧の本州付近への張り出しが弱く、沖縄・奄美をのぞいて、曇りや雨の日が多くなりました。特に、24 日は低気圧の影響で北海道で大雨となり、土砂災害が発生しました。旬の後半は、前線が日本の南海上に停滞し、北日本付近の高気圧の影響で北日本から西日本にかけて寒気が流れ込んだことから、旬平均気温は、東・西日本でかなり低くなりました。

月平均気温は、西日本で低くなりました。月降水量は、北日本、東日本日本海側、西日本でかなり多く、東日本太平洋側で多くなりました。17 地点で 8 月の月降水量の多い方からの 1 位を更新しました。月間日照時間は、東・西日本ではかなり少なく、北日本日本海側、沖縄・奄美で少なくなりました。29 地点で 8 月の月間日照時間の少ない方からの 1 位を更新しました。

【8 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値(注) より 3 ポイント低い 76%で、明後日予報は例年値より 7 ポイント低い 68%でした。各地方の適中率では、明日予報は、例年値に比べて、北海道地方で 8 ポイント高くなった一方、5 地方で 6～10 ポイント低くなりました。明後日予報は、北海道を除く全ての地方で低くなり、特に東海、近畿、中国、四国の 4 地方で 10～16 ポイント低くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は、全国平均では例年値と同じ 1.7℃となり、近畿地方で 0.5 度大きくなったほかは概ね例年値と同程度でした。最低気温の予報誤差は、全国平均では例年値と同じ 1.1℃となり、全国的に概ね例年値と同程度になりました。

（注）例年値は気象庁ＨＰ（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【10 月の天気予報の利用にあたって】

秋になると日本付近を低気圧と高気圧が交互に通過するようになり、天気は数日の周期で変わるようになります。低気圧の通過後に北寄りの冷たい風が吹いて気温が下がり、その後高気圧に覆われて気温が上がるなど、寒暖の変動が大きい時期もあります。また低気圧が急激に発達しながら日本付近を通過する際には、大雨や強風など大荒れの天気となることもあります。天気予報により大雨や強風などが予想された場合は、最新の気象情報や警報、注意報などに十分留意して下さい。